

## 【オンライン付録】

# 日本における「ねじれ」た金融緩和選好を説明する イデオロギーと政策選好の關係に情報環境が与える影響の實驗的検証

2019 年 12 月 30 日

## 目次

付録 A 争点態度イデオロギー設問のリスト	2
付録 B 主要変数の分布	3
付録 C 統制変数の詳細	4
付録 D 争点態度イデオロギーの因子分析結果	5
付録 E イデオロギー指標間の關係	6
付録 F イデオロギーと實驗刺激が金融緩和選好に与える効果（詳細回帰表）	7

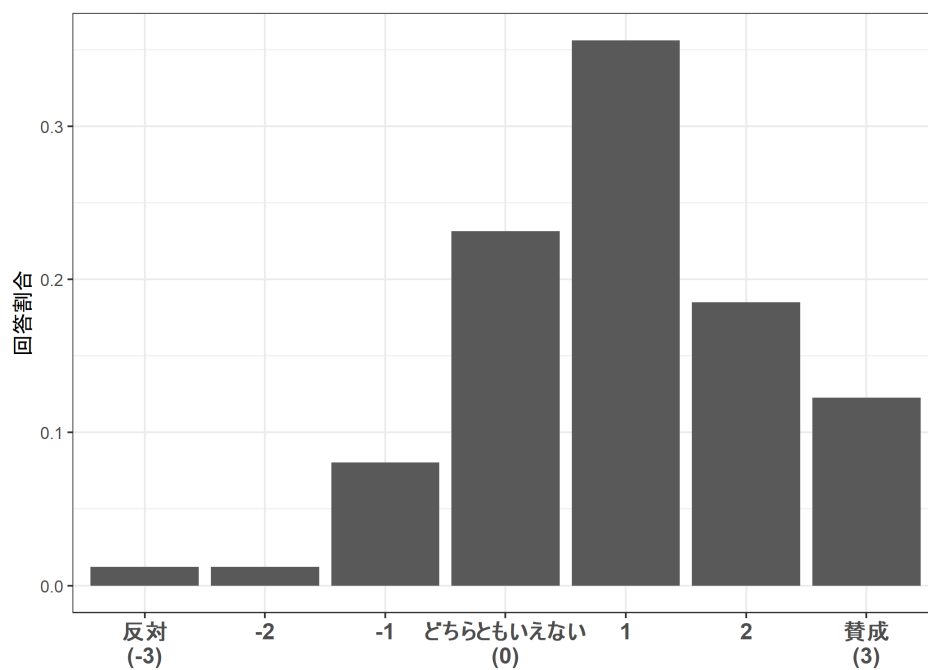
## 付録 A 争点態度イデオロギー設問のリスト

最近いわれているいくつかの意見について、あなたのお考えをお聞かせください。-3 を反対、0 をどちらともいえない、3 を賛成として、-3 から 3 までの数字でお答えください。

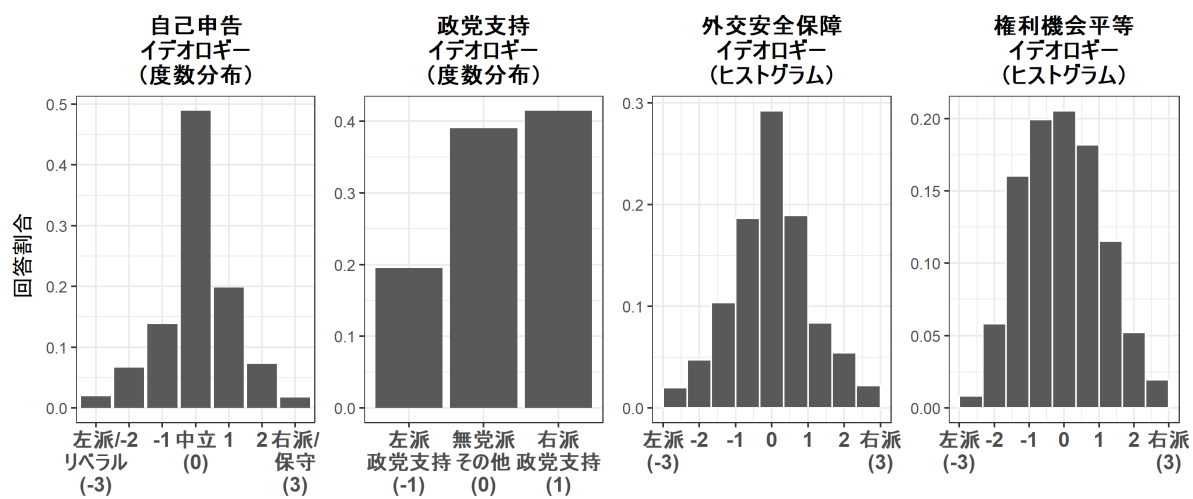
- 自衛隊の人員・装備・予算を拡充する
- 集団的自衛権の行使を可能にする
- 在日米軍による抑止力を維持する
- 首相を最高指揮官とする国防軍を組織する
- 国会での憲法改正発議要件を、『3 分の 2 以上』から『過半数』の賛成に緩和する
- 首相が公式に靖国神社に参拝する
- 景気対策のために財政出動を行う
- 防災・減災対策のための公共事業を行う
- TPP（環太平洋パートナーシップ協定）に参加する
- 増税をしてでも社会福祉を充実させる
- 海外からの移民の受け入れを進める
- 永住外国人の地方参政権を認める
- 夫婦別姓を法律で認める
- 同性同士の結婚を法律で認める
- 安全と確認された原発を再稼働させる

※ 各争点の表示順は回答者によってランダム化されている。

## 付録 B 主要変数の分布



図A1 金融緩和選好の分布



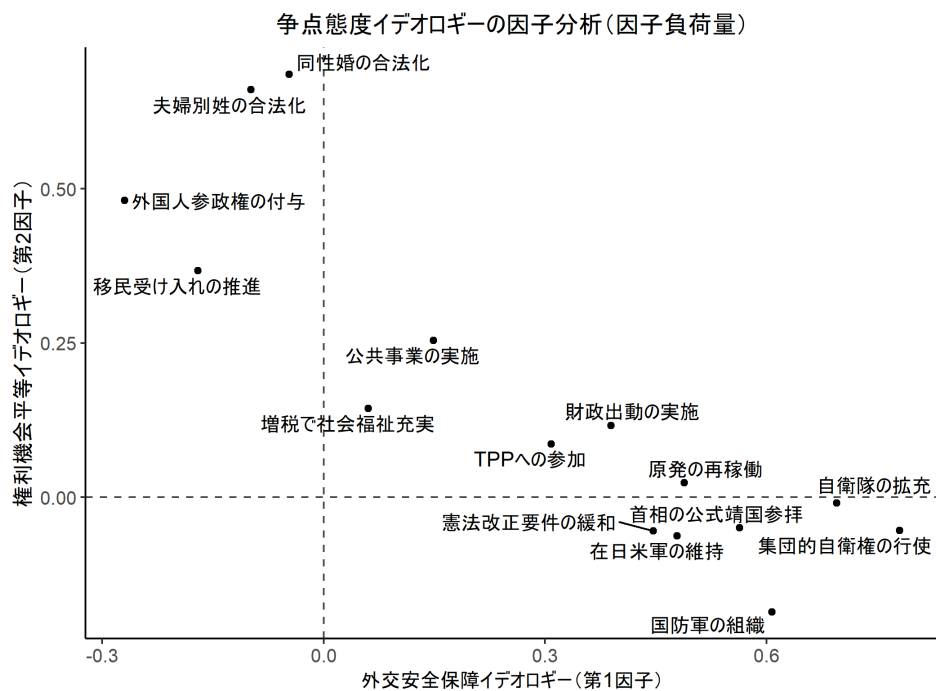
図A2 各イデオロギー変数の分布

## 付録 C 統制変数の詳細

- 性別：1 = 女性；0 = 男性；0.5 = その他
- 年齢：満年齢、1 歳ごと
- 居住年数：0 = 3 年未満；1 = 3 年以上～10 年未満；2 = 10 年以上～15 年未満；3 = 15 年以上；4 = 生まれてからずっと
- 持ち家：1 = 持ち家（一戸建て、分譲マンション・アパート）；0 = その他
- 教育程度：参照カテゴリ = 小学校／中学校／高校（旧制中学校等を含む）；短大／高専（高等専門学校）／専門学校；大学／大学院
- 就業の有無：1 = 仕事をしている；0 = 仕事をしていない
- 結婚の有無：1 = 結婚している；0 = 結婚していない
- 子どもの有無：1 = 1 人以上；0 = 0 人

## 付録 D 争点態度イデオロギーの因子分析結果

図の横軸と縦軸は各争点態度設問の第1因子と第2因子に対する因子負荷量を示している。横軸である外交安全保障イデオロギー（第1因子）を見ると、集団的自衛権の行使や、自衛隊の拡充、国防軍の組織など、外交・安全保障に関する争点態度設問の因子負荷量が高いことが分かる。一方で、縦軸である権利機会平等イデオロギーを見ると、同性婚や夫婦別姓の合法化、外国人参政権や移民の受け入れなど、権利や機会の平等に関する争点態度の因子負荷量が高い。一方で、社会福祉や公共事業などの経済争点に対する争点態度は、2つの因子の中間に位置している。



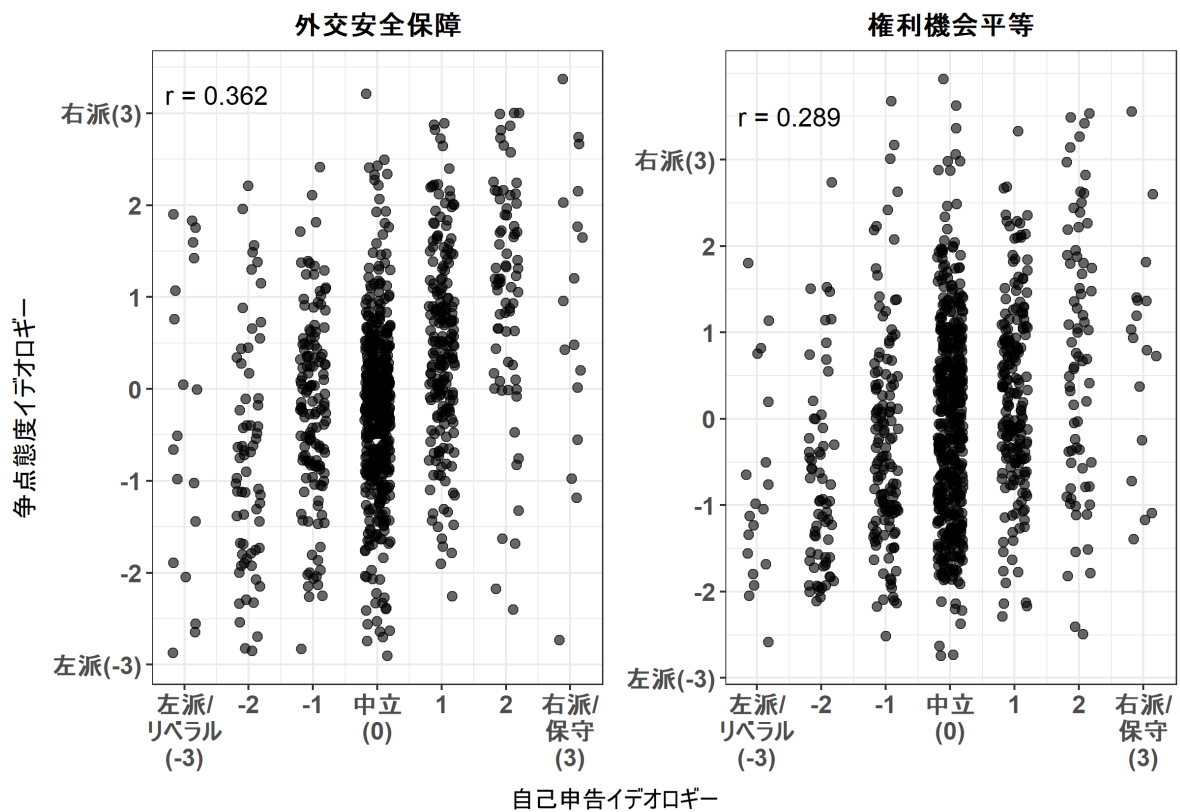
※ 因子負荷量の推定にはプロマックス回転と最尤法を用いた。因子スコアはBartlett法を用いて算出した。

図A3 因子分析による争点態度イデオロギー対立軸の抽出

## 付録 E イデオロギー指標間の関係

表A1 イデオロギー指標間の相関

	自己申告	政党支持	外交安全保障	権利機会平等
自己申告	1.000			
政党支持	0.366	1.000		
外交安全保障	0.362	0.453	1.000	
権利機会平等	0.289	0.167	0.055	1.000



図A4 自己申告イデオロギーと争点態度イデオロギーの関係

## 付録 F イデオロギーと実験刺激が金融緩和選好に与える効果（詳細回帰表）

表A2 イデオロギーと金融緩和選好の関係に実験情報刺激が与える効果（重回帰分析）

	自己申告	政党支持	外交安全保障	権利機会平等
(定数項)	1.102*** (0.224)	0.959*** (0.224)	0.952*** (0.211)	1.028*** (0.222)
1. 経済成長	0.128 (0.129)	0.238 <sup>†</sup> (0.129)	0.158 (0.121)	0.150 (0.130)
2. 経済成長&貧困削減	0.279* (0.126)	0.350** (0.132)	0.304* (0.121)	0.289* (0.127)
3. 経済成長&学者賛成	0.137 (0.121)	0.228 <sup>†</sup> (0.130)	0.160 (0.116)	0.155 (0.123)
4. 経済成長&貧困&学者	0.382** (0.119)	0.519*** (0.122)	0.402*** (0.116)	0.393** (0.121)
イデオロギー	0.159 <sup>†</sup> (0.085)	0.368** (0.116)	0.364*** (0.078)	0.075 (0.069)
イデオロギー ×1. 成長	0.033 (0.123)	-0.157 (0.177)	0.089 (0.128)	-0.217 <sup>†</sup> (0.120)
イデオロギー ×2. 成長&貧困	0.049 (0.119)	-0.071 (0.169)	-0.007 (0.116)	-0.207* (0.101)
イデオロギー ×3. 成長&学者	0.025 (0.111)	-0.155 (0.169)	-0.036 (0.107)	-0.196* (0.098)
イデオロギー ×4. 成長&貧困&学者	-0.272* (0.123)	-0.441** (0.166)	-0.216 <sup>†</sup> (0.112)	-0.034 (0.103)
政治知識	0.262 <sup>†</sup> (0.155)	0.251 (0.156)	0.218 (0.148)	0.282 <sup>†</sup> (0.158)
性別（女性）	-0.324*** (0.088)	-0.313*** (0.088)	-0.206* (0.087)	-0.395*** (0.090)
年齢	-0.007 <sup>†</sup> (0.004)	-0.006 (0.004)	-0.004 (0.004)	-0.005 (0.004)
居住年数	-0.071* (0.032)	-0.066* (0.031)	-0.063* (0.030)	-0.063* (0.032)
持ち家	0.003 (0.090)	-0.007 (0.089)	-0.018 (0.086)	0.011 (0.091)
教育：短大／高専／専門学校	0.175 (0.140)	0.205 (0.139)	0.179 (0.137)	0.181 (0.139)
教育：大卒以上	0.088 (0.110)	0.114 (0.112)	0.150 (0.106)	0.093 (0.112)
就労	0.014 (0.091)	-0.013 (0.091)	-0.019 (0.088)	-0.012 (0.091)
婚姻	-0.132 (0.119)	-0.192 (0.123)	-0.200 <sup>†</sup> (0.117)	-0.118 (0.122)
子ども	0.211 <sup>†</sup> (0.120)	0.243* (0.122)	0.269* (0.117)	0.234 <sup>†</sup> (0.123)
R <sup>2</sup>	0.077	0.074	0.135	0.063
Adj. R <sup>2</sup>	0.058	0.055	0.117	0.043
Num. obs.	927	927	927	927
RMSE	1.197	1.199	1.158	1.206

\*\*\* $p < 0.001$ , \*\* $p < 0.01$ , \* $p < 0.05$ , <sup>†</sup> $p < 0.1$ .  
最小二乗法による重回帰分析、ロバスト標準誤差使用.